

2004年度低学年（3年生以下）指導方針 — 試合等の対応 —

児玉 亮、矢部 裕希、高谷 吉孝、齋藤 宏紀
川井 博行、小室 善昭、鈴木 浩

年度当初（4月18日）に行われた指導部会で、2004年度のBJの指導方針とその体制について指導陣の話し合いが持たれ、この場において、年間の目標や指導者の役割、注意すべき点など大津監督から示された方針を確認することができた。

その後、半年余りの活動を経た中で、これまでの部員勧誘の成果として、3年生の人数も徐々に増えてきたが、依然として学年単位で見た場合には、11人制の試合に3年生が学年単独で参加できる状況にはない。

そのため、10月9日のコーチ会において、改めてこの点を中心とした話し合いを行い、次のような方針を立てた。

- ◎ 一般的に、3年生や5年生といった奇数学年は、6年生大会や4年生大会等に比べて、市内大会以外の招待試合等の頻度も少ないため、11人制の試合に関しては、可能な限り3・2年生全体（U9という形）で参加する。（ただし、主催者側からの選手の人数制限や車両台数の制限のため、一定人数の選抜をせざる得ない場合、試合数が1試合だけの場合、当日の指導者が少なく全員への十分な対応が期待できない場合などにおいては、試合の種類・内容・対戦相手・天候等を加味して、指導陣の判断により一定人数を選抜する。）

（理由）

- ・ 試合と練習は一体のもので、MTM（Match-Training-Match）メソッドとして知られているとおり、試合での課題を練習で修正しその成果を試合で確認するという一連の指導が必要であること。
- ・ 2年生にとっても、試合でのポジションやそれぞれの役割など、日頃の練習では指導の機会の少ない事柄を理解するための場となり、試合を観る（選手の動き方やプレーを観察し、善し悪しの判断をし、指導者の解説等をもとにイメージとして理解する）ことで得るものは多く、与えられた課題に挑戦する意欲を向上させる必要があること。（試合前後やハーフタイムでのミーティング、試合中の指導者のコーチング、ベンチ内で試合進行に応じた指導者から控え選手への説明等の重要性）
- ・ 試合の前のアップや試合会場での空き時間での練習が行えるため、例え試合に出る時間が少ない場合でも、実質的には週2回の練習を補うことになる。

- ◎ フットサルなどの試合では、ポジションより一人ひとりの運動能力や判断力が重要となり、体力的にも個人の負荷が大きく、連係ミスからの失点につながるなどチーム内の日頃の連係が大切であることから、原則として単独学年で参加する。（ただし、一日の試合数が極端に多い場合、真夏などで体力消耗が激しい場合、健康上の理由等で出席人数が少ない場合、ポジション的にどうしても必要な選手がある場合、育成の観点から参加が必要と判断される場合を除く。）

※ 以上の方針については、当面の対応であり、今後人数的に大きく変動があった場合には見直しを行う。

※ 2年生の試合での1年生の関わり方についても、上記の3年生の試合の例と基本的に同様の考え方で対応する。（ただし、幼稚園生は1年生と同一行動とする。）

※ 今後の子供たちの『体力』・『知力』・『気力』の成長状況に応じ、指導陣の協議を経て、チームワーク強化のために練習及び試合とも一定の期間に限定し、3年生（2年生）との同一行動をとる2年生（1年生）を選定することもあり得る。

※ 前記◎の方針のうち、括弧内に記載した事情により、特定の試合に向けて下級生から一定人数の選手を選抜する必要がある場合には、指導陣の協議・決定後なるべく早く本人又は父母に連絡できるよう配慮する。

また、選抜に際しての指導陣の判断に対して、子供たちが「選ばれる」ということを誤解し、変な優越感や劣等感を抱かないように説明することはもちろんのこと、ゴールデンエイジの前段階として必要な成長についての意識づけ及びこの時期の基礎練習の重要性の理解など、保護者ともども一丸となってサポートする体制に努めるものとする。

<その他の方針>

★ 父母のサポート（車出し、試合等の当番）については、チームとしてお願いするものであり、父母本人の子供の出席と必ずしも連動するものではないが、我が子の成長等を目にする貴重な機会であることから、当番の交代などは適宜行ってもらい、特定の父母への負担の軽減あるいは多くの父母に試合観戦の機会を設けるという視点で対応する。

★ 試合出発時の準備、会場での準備や片づけ、帰着時の片づけについては、教育上の配慮から極力子供たちに主体的に行わせることとし、また会場での指導者へのお茶だし等はなるべく簡略化してセルフサービスでの対応とすることで当番の負担軽減を図る。

★ 指導陣は、試合に参加する子供たちのうち、控え選手や出場時間の少ない選手に対しては、育成の観点からの意識づけや指導に十二分に配慮する。

以上

（10/9コーチ会参加者： 大津、加藤（6年）、高木（5年）、島崎（4年）、北山（4年）、児玉（3年）、高谷（3年）、矢部（2年）、齋藤（2年））

上記については、本年度の指導部会及びコーチ会での指導陣の話し合いをもとに取りまとめをしたものです。（欠席者には後日提示し確認）

当分の間、このような運用としますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

指導部長 大津 保男